

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業・放課後等デイサービスあてあ・あーち 放課後等デイサービス(あくあ)		
○保護者評価実施期間	2026年1月15日 ~		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年1月15日 ~ 2026年2月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月の職員会で、支援スキルを向上するために、専門知識の研修、事例検討や授業研究を行ったりしている。	将来の業務において必要となる知識やスキルを習得している。支援をしていく中で多様な視点でニーズに応じた適切な支援ができるように、意見交換している。一人で抱え込まずチームで支援できるように、話し合いをしながらチーム体制が作れるように工夫している。活動の質の改善や、新しい視点からよりよい活動の開発や共有を目指している。	職員のよりよい支援を目指すため、職員の心のケアにも取り組む。アンガーマネジメントなどの研修などの検討をしていく。
2	毎月5領域に沿って活動内容を計画し、それを基に日案を作成し、授業内容に沿って活動している。	5領域に沿って、その日に利用する利用児に一人一人に目標を立てて活動している。短い時間内に活動が円滑に回るように、活動内容を想定し、それに沿って活動している。	その日のうちに振り返りを行い、内容の充実化や支援の質の向上を目的にPDCAサイクルの実施に努めていく。日々変化が激しい環境から、より迅速に対応するために、PDCAに加え、OODAループを取り入れながら、柔軟な対応をしていく。
3	周辺の放課後デイサービスや就労支援施設と管理者同士がつながりを作ることができている。	定期的に管理者の交流会に参加し、情報交換をしながら、よりよい支援につなげている。	今後交流の機会を作るため、見学や施設利用、または利用者同士の交流も検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パニックになったときに対応したりやクールダウンをしたりするための十分なスペースがない。	部屋の大きさは適切だが、静かに過ごしたり一人で休んだりする場合の場所の確保が難しいため、パニックを未然に防げないケースも発生している。	児童発達支援の教室を使用したり職員配置を工夫したりして環境を整えていく。
2	緊急時対応マニュアルなどのマニュアルや避難訓練の実施報告などが保護者に周知されていない。	職員間には共有できていたが、保護者にまでは周知できていなかった。	緊急時対応マニュアルについての説明、周知をしていく。また、避難訓練の報告書もお便りに追加して記載していく。災害などの緊急時の対応訓練も実施の検討をしていく。
3			